



スロバキア訪問記

野池 耕平 (NOIKE, Kohei 東京スペレオクラブ所属 福岡県在住)

ドミツアの二次生成物の様子

1. はじめに

この度、スロバキアへ訪問する機会を頂いた。スロバキアは、日本人にとって観光の対象としての知名度は高いとは言えないものの、中でもブラチスラヴァ城やスピシュスキー城などが観光地として知られている。しかし、ケイパーであるからにはそのような観光地には目もくれず、洞窟がある地域を狙っていくのが必然といえるだろう。私は、スロバキア洞窟管理事務所と交流のある浦田健作氏(カマネコ探検隊)や千葉伸幸氏(地底旅団 ROVER 元老院)にコンタクトを取り、スロバキアの洞窟を訪れる計画を立てた。

今回、このスロバキアへの訪問記録についてケイビングジャーナルに寄稿する機会を頂いたが、事務所や洞窟については、これまで浦田氏や千葉氏がさまざまな媒体に投稿した情報があるので、ここでは2016年に開館したばかりという Slovak Museum of Nature Protection and Speleology(スロバキア自然保護・洞窟博物館)を中心に寄稿したい。

2. ロジュニャバ (Rožňava) 地方

ロジュニャバはスロバキア南東にあるコシツェ県の西端に位置する地域である。この地はスロバキアからハンガリーにかけて分布する世界遺産「アグテレク・カルストとスロバキア・カルストの洞窟群」の一部であり、代表的な洞窟であるドミツア (Dolica) は国境を超え、ハンガリーにまで達している。

訪問初日は洞窟管理事務所のルドヴィト・ガール博士 (Ľudovít Gaál) やガブリエル・ヤカupp氏 (Gabriel Jakab) らの案内でドミツアおよびハンガリー側のバラドラ洞 (Baradla Barlang) を訪問した。この洞窟は、ドミツアからバラドラ洞への地下河川を主とした構造を持ち、石灰岩と

非石灰岩部からの流入が何本か確認できるようである。ここでは観光洞のみを見させていただいたが、洞内で国境を超えることにも非常に興味がある。初めてこの国境を越えたとき、当時は国境を超えるにはパスポートが必要であったはずであるが、どうしたのだろうか。島国である日本は陸続きの国境がないため不思議な感覚であった。バラドラ洞ではコンサートが開かれている巨大なホールがあり、途中からであったものの演奏を楽しむこともできた。ドミ



ドミツアの入り口



ルドヴィト・ガール博士から地質の説明を受ける